

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ合同研究会
第43回 議事録

- 1 日 時 平成25年1月19日(土) 11:00~12:30
2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)
3 参加者 12名
うち 本学学生 1名
本学事務局 3名

4 内 容

- (1) 資料の確認及び解説(2月24日幼小接続フォーラム開催の案内を兼ねて)

○資料Ⅰについて(善野代表から説明)

- ・「これからの幼児教育とは一遊びにおける学びと小学校への接続に向けて」
～(白梅学園大学 無藤 隆教授)の文献から学ぶ～

[概要]

- ①「遊びから学びが生まれる」について、学びの基礎力として(情としての)興味、(意としての)自己調整、(知としての)気づきを、それぞれ自立の基礎としてとらえること。
- ②幼児教育の原理を、楽しさの原理、構成の原理、集中の原理、感性の原理から、それぞれ学びの芽生えとして認識していくこと。
- ③小学校教育の土台を育てる意識で、幼児期の感覚的身体的な学びが経験の土台となり小学校以降の教育を支えることを自覚すること。
- ④接続のカリキュラムでは、「多様な運動遊び」「協同的学び」「道徳性の芽生え」「規範意識の芽生え」「言葉による伝え合い」「表現力の芽生え」など、芽生えを生かす幼児期の主な活動を小学校の各教科・領域に組み込むこと。
- ⑤幼児期の遊びにおいて育つ教科教育の基礎として、体育、算数、国語において「運動する力の基礎」「算数の基礎」「国語の基礎」の視点から具体的な活動を例示。

○資料Ⅱについて(大山先生から説明)

- ・ 関市立下有知小学校の資料(平成24年度第1学年幼保小交流会「しもうちレンジランド」計画表)をもとに

[概要]

- ①計画表には、交流会としてのねらいのほかに、「幼児のめあて」「児童のめあて」を示し、指導者が交流会において適切に援助、支援、指導、評価が行えるように配慮している。
- ②小学校体育館での緊張感の漂う場面である「はじめの会」では、あえて男性教員の出番を設け、女性主体の幼稚園・保育園とは異なる人的環境設定を試みている。(入学後のとまどいの一つである「男性教員との初めて出会い」を解決することによる)

(2) 情報交換

[一日体験入学に関する本日の合同研究会参加者からの反応・各校園の実態交流]

- ・ 幼稚園では、小学校側の計画にすべて任せている実態がまだある。
- ・ 幼稚園側の願いとして、配慮事項を事前に小学校に伝えている。
- ・ 一日体験入学が継続していけることを心がけている。
- ・ 各学校の事情にもよるが、多数の園所から入学してくる小学校では、近隣以外の園所とは一日体験入学と日常的な交流とのつながりがもてない状況にある。

(3) 一日体験入学案（資料Ⅲとして：善野代表作成）についての検討
（2グループに分かれてのワークショップ）

○ 検討するための視点

- ・ 「おもな学習活動」に記載されている留意点
- ・ 90分計画としての各活動の流れに即した時間設定と配分
- ・ 幼児への援助、児童への支援や指導についての妥当性・適切性
- ・ 幼児の見取りや児童の評価の在り方

○ 案の基本構想

- ・ 時期…2月第4週～3月第1週
- ・ 活動名…「もうすぐ1ねんせい」「あたらしい1年生をしょうたいしよう」
- ・ めあて
(幼児) 小学校での体験をとおして、入学を心待ちにする気持ちを高め、小学校の人々とかかわることを楽しむことができる。
(児童) 幼児との活動を通して、相手に応じて接しようとするとともに、自分の成長に気付くことができる。

(4) 各グループでの討議内容の報告

- ・ 幼児には期待感を高める工夫が大切である。事前の活動で「招待状」（小学校図工科制作）をもらうなどの工夫がよいのではないかと。事前に幼児教育側が把握して、幼児に働きかける必要がある。
- ・ 「トイレたんけん」は、本時までの交流活動で体験しておく、多くの時間をとる必要がないのではないかと。
- ・ 幼児教育では見取りを向上目標として「できたか」、小学校では到達目標として「できた」と表現方式を用いている。
- ・ 案にもあるとおり、幼児が机の中に学習用具を入れる体験があることが生活自立から、学びの自立につながる体験活動として大切なことである。
- ・ 各コーナーごとに分かれての活動は幼児の興味関心から選択していくことを尊重することでもあり適切ではないかと。
- ・ 終了時の振り返り場面では、きっと幼児は小学生からほめてもらう言葉を期待しているだろう。振り返りとしても大切にしたい時間である。また、幼小が相互に関わり合えるためにも互いに言葉を聞き合う場面設定が必要

である。

- ・ 最後の振り返りは、小学生の成長への実感や気づきを深める活動であり、書く活動として位置付けられるため、次の時間を国語として設定することが有効だと考えられる。
- ・ 案では「学習活動」と表現されているが、幼小の合同指導案としては「体験・活動」とした方がよいのではないか。
- ・ 活動の中身として、遊び体験、(学校での)生活体験、学び体験、交流体験と、時間的にも内容的にもバランスよく配分されている。
- ・ 時間内での見取りや評価の項目が多いと感じる。実際の場面を考えると評価することに無理な感じがするので、活動のめあてに即したものに精選を図ることが望ましいのではないか。

(5) まとめ (善野代表)

- 本日のワークショップでの「一日体験入学案」をもとに、グループごとに話し合われた事項に関して
 - ① 小学校において自分の成長を実感する場面を設定することは必要である。時間内における評価項目数については精選していく。できた案については2月24日のフォーラムの会場で配付資料の1つとしたいと考えている。
 - ② 案の計画・作成段階では、子どもの発達に照らして具体的な活動の1つ1つである小さな出来事や場面を丁寧に見ていく作業が大切である。
 - ③ 子どもが今日の体験入学を家庭で話題にすることは、家庭教育との連携という視点からも大切にして、幼稚園では家庭への働きかけも考えていきたいものである。

(6) 参加学生の感想

入学前のとまどいを見通した1日体験入学の指導案を見ながら、幼小の先生が検討されることで、明確に子どもたちの姿が見え、両方の立場からの意見が集約され、よりよく改善されていくことを体感させて頂きました。

先生方が、研修会で実践を元に情報交換され、課題を持ち帰り、工夫や配慮をされ、また次の研修会で意見交換され、短時間でみるみる改善されていく様子を見せていただき、幼小両方の子どもたちの成長や意欲を育てるために熱心に参加され、考えられてきた成果がぐんぐん出てきているなど思いました。

とても、勉強になりました。ありがとうございます。

5 次回の予定

平成25年2月24日(日) 13:00～16:30 (受付12:30～)

※ 幼小接続フォーラムとして開催